



市民の手で市民活動を支える

認定 NPO 法人

宝塚 NPO センターニュース

2013
September

No.76

発行人：牧里 毎治
編集人：中山 光子



このニュースの編集・発送はボランティアの皆さんにご協力いただいています。

特別企画！

会員さんに聞きました。

今年で 15 周年を迎える宝塚 NPO センター。創立当初より会員として支えて下さっている中政芳さん・鶴丸悌二さん・菅原美代子さんにお話をうかがいました。

***皆さんが会員になられた「きっかけ」をお教えてください。**

◆鶴丸：私は当時ボランティア活動センターで活動をしていて、森綾子さん（以下森さん）が NPO を立ち上げるから、なんとなくという感じなんですよ。



宝塚市福井町在住 中政芳さん

◆中：実際、NPO が分からへんのですよ。けども、協力出来ることやお役に立てる事があればさしていただくということで、会員に加えて頂いたんですけども、会費だけ納めさせて頂いて、こちらへ足を運んだことがないんです。

◆菅原：私は森さんとのボランティアとしてのつながりからです。在宅高齢者が気になってボランティアセンターに飛び込んだんです。その後同伴児保育をやらせて頂いて、その活動が今でも続いています。森さんは当時、震災の後ボランティアで続けることに限界を感じておられて宝塚 NPO センターを設立された。何も出来ませんけれども、皆さんの支えになるならと思って、続けて顔を出させて頂いています。

***今では宝塚市内に 97 団体もの NPO があります。宝塚 NPO センターが出来た時には NPO って何？と思ながらも支えて下さったはず。その当時のお気持ちは？**

◆鶴丸：私も NPO でボランティアしてても「NPO って何ですか？」っていう程度でした。森さんは研究会を作ったり、なにかをやっている人に「NPO を立ち上げなさいよ」と声をかけてました。「とにかくやってみなさいよ。応援するから」って。その気になってというのはおかしいけど、

じゃあ、やってみようかと思われた方は少なくなかったと思います。

◆菅原：研究会などの学びを通じて NPO についてはおおよそ理解させて頂けたと思っています。ボランティアではなく、独立して動ける NPO。そういうことが出来る NPO にさせて頂きたいと活動させて頂いていました。



宝塚市逆瀬台在住 鶴丸 悌二さん

***宝塚 NPO センターは「市民活動の交差点」でありたいと考えています。人とひとが行き合うような場所であってほしいと思っています。いかがでしょうか？**

◆菅原：出来ると思うといいと思いますね。そういう色が見えてくると宝塚 NPO センターだ、っていうふうだね。会員としてすごく嬉しいね。

***会員さんとして宝塚 NPO センターに大事にしてほしいということをお聞かせいただけますか？**

◆中：いろんなニーズがあると思うのです。それを一つひとつ聞いていったら、とんでもない拡がりになってしまう。他にない特色をより大きくされたら一番いいのじゃないでしょうか。宝塚 NPO センターは先駆者ですし、「なくてはならない」存在として特色を確かなものにしていけたらどうでしょうか。

◆鶴丸：出来た時は個人商店的な形でしたけれど今は 16 名のスタッフですか。サポートステーションという支店も出来たわけですけど、経過を見ながらやってほしいですね。



◆菅原：宝塚市内にたくさん宝塚市中山桜台在住 菅原 美代子さん NPO が出来ています。よりよい活動のためにそれぞれの NPO 同士、ネットワークが強くなることを期待しています。そのための宝塚 NPO センターだと思うのです。

⇒次ページ下段につづく

今年度目標：わたしが働きかけると社会が少しずつ動いていく

地域若者サポートステーション事業

開設記念講演会開催！

7月7日（日曜日）、「宝塚地域若者サポートステーション」の開設記念講演会として、若者の「働く」と「自立」を応援するキャリアセミナーを開催し、市内外から60名を超える方々にご参加いただきました。

講師は、若者の自立に数多く関わってこられた、NPO法人「育て上げネット」若者支援事業部長井村良英氏。若者の自立を応援する支援者、保護者の方々、そして若者を対象にお話しいただきました。若者が職業的自立をするためのステップや、自立するために必要なつながり、支援するにあたっての基本姿勢といった内容。自身の体験を交えてお話しいただき、後半には参加者の方からの事前質問にもお答えいただきました。

参加者は井村先生からのメッセージを、自分の置かれた状況に応じて咀嚼して受け取っているように見受けられ、また私たち宝塚サポステのスタッフは支援者として、社会の中での役割の大きさや責任の重さを改めて感じるきっかけとなりました。今後、それぞれの責務を精一杯果たしていこうと、決意を新たにいたしました。（T）



ファンドレイジング部&デザイン部

「働きかけ」を深める部活動

「ファンドレイジングを考える」ファンドレイジング部&「NPOセンターをどのように見せるか考える」デザイン部をスタートしました。

普段の慌ただしい業務が終わった後、ゆっくりと個別のテーマについて話し合っています。ファンドレイジングとはNPOが事業に必要な資金や支援を集めるために、社会に働きかけていくこと。部活を通じファンドレイジングの基礎をドラッガー等を通じて学んでいくと同時に、いま

NPOセンターが取組める事は何かを考え様々な問題提起やアイデアを部員が出しています。

ここでいうデザインとは、単にチラシなどを綺麗に作成するということではなく読者、参加者などのターゲットを設定し使用する色・字体・レイアウト・単語などを統一していくブランディングの事を指します。今年度中に企画や講座などのソフト面、名刺やチラシなどのハード面どちらも「宝塚NPOセンターらしさ」を明確化したいと、若い職員が中心となり話し合っています。

この二つの部活動で、NPOセンターがどのように変わるか？！ご期待ください。（W&YS）

＊最後にこれからの宝塚NPOセンターに一言お願いいたします。

◆鶴丸：会員として、またボランティアの一人として、ここで働いていることを誇りに思えるようなNPOセンターになって欲しい。ここで働いているんですよって人に言った時に、うらやましがられるようなセンターになって欲しいと思います。

◆菅原：宝塚の活動の中心になってね、ずっと続けて頂きたいなと、それだけです。私としては何も出来ませんけれどもある限り会員でいましょうか。

◆中：宝塚NPOセンターを手本とする中間支援がたくさん出てきたらいいなと思っております。私が参加出来ない反省を今一所懸命やってる最中でございまして、年会費での協力をつづけさせてください。

＊15年間、宝塚NPOセンターを支え続けてくださった会員さんにお話をうかがい、改めて私たちが進むべき方向が再確認できました。ありがとうございました。これからもお元気で、センターを支えてくださいますようお願いいたします。（N）

生きがいごとサポートセンター全県展開事業 今年も続く但馬地域づくり活動支援

昨年度、地域づくり活動支援事業として取り組んだ但馬地域における活動は、生きがいごとサポートセンター全県展開事業として本年度も続いています。豊岡市民プラザと連携しながら、但馬地域を元気にするCB・SBなどの起業と就労を支援しています。5月に開催した助成金申請講座の成果もあり、兵庫県のコミュニティビジネス離陸応援助成事業では、当センターを通して但馬地域から4団体が採択となりました。又、城崎温泉の旅館の若旦那達が立ち上げたNPOと一緒に取り組む「地域とNPOのつなぎ方講座」は大雨によるハプニングで延期となってしまいましたが、地域を元気にする若い力がどんどんと但馬で生まれています。(W)



ひょうごボランティア基金助成事業

新たに2事業を追加しました!

本年度新たにひょうごボランティア基金の助成を受け「中間支援活動事業」並びに「NPO・行政協働事業」がスタートしています。中間支援活動では「訪問支援による地域力再発見」と題し、センター職員が地縁組織を訪問し、課題解決支援をしながらNPOと地縁組織が協働するためのツールとなる「地域の得意技集」作成していくというもの。NPO・行政協働事業では阪神北県民局・川西市と協働のもと、若者が北摂里山の魅力にふれ若者目線の広報活動や維持活動を行う予定です。(YK)



宝塚NPOセンター報告情報より

相談情報

(4月1日～8月31日まで)

・面接者数	503名
・電話FAX相談件数	1,111名
・メール相談件数	1,080名
・相談者数合計	2,694名

求人求職者・起業団体情報

(4月1日～8月31日まで)

・新規求人数	211名
・新規求職者数	176名
・就職成立者数	109名
・起業・拡充団体数	18団体

保護者向けセミナー ー若者の「自立」のために親ができることー

「わが子が就職しない」「学校を中退してしまった」「家にずっといる」
「就職したのにすぐにやめてしまった」
そんな悩みを抱える保護者のためのセミナーです。



田中 俊英 氏

参加費：無料 定員：20 名（先着順）
日 時：2013 年 11 月 16 日（土）13：30～15：30
会 場：宝塚市立男女共同参画センターエル（宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 2・4 階）
講 師：田中 俊英 氏（一般社団法人ドーナツトーク代表）
出版社起業ののち、10 年間 NPO 法人代表を勤め、こども若者問題
（不登校・ニート・ひきこもり・貧困問題等）の支援と、関係 NPO への中間支援を行う。
主な著書に「ひきこもりから家族を考える」（岩波ブックレット）他。
京都精華大学非常勤講師

お申込み・お問い合わせは、宝塚地域若者サポートステーションまで
Tel：0797-69-6305 Fax：0797-69-6315 まで

ご支援ありがとうございます（順不同、敬称略 期間：2013.9.10まで）

●新たに入会された皆さん

【団体正会員】宝塚市花のみち自治会

【賛助会員】小西孝幸・安田和弘・折戸政男・宮脇瑞穂・舩井芳子・社会福祉法人晋栄福祉会宝塚ちどり

●寄付をいただいた皆さん

山口一史・大濱芳子・ろうきん NPO 寄付システムご利用の皆様・中山光子・橘田てつ子

会員募集・継続のお願い

宝塚 NPO センターは、「市民が市民を支える社会」を作るために、市民活動の支援をしています。
人がつながり仲間になる、仲間がつながり地域になる、地域がつながり社会になる、その全ての場面を支えるセンターでありたいと考えています。私たちの活動を、会員として一緒に支えて下さいますようお願いいたします。

	個人正会員	団体正会員（NPO 法人他）	法人正会員	賛助会員
会費	10,000 円	10,000 円	30,000 円	3,000 円

振込先

	銀行振込	郵便振替
銀行名	三菱東京 UFJ	
支店	阪急宝塚出張所	
口座番号	普通預金 3629422	00930 - 8 - 77117
カナ	トクテイヒエイリ タカラヅカエヌピーオーセンター	タカラヅカエヌピーオーセンター
口座名義	(特) 宝塚 NPO センター	宝塚 NPO センター

編集後記

紙面が新しくなって 1 年が経ちました。
読み返してみると、さまざまな方面の事業に取り組んでいる NPO センターがよくわかります。また新たな気持ちで、ボランティアの立場から NPO センターのいろいろな顔をご紹介できればと思っています。(K)

認定 NPO 法人 宝塚 NPO センター

〒665-0845
宝塚市栄町 2-1-1 ソリオ 1-3F
Tel：0797-85-7766
Fax 専用：0797-85-7799
利用時間：9:00～18:00
休館日：月・日・祝日・年末年始
Email：zukanpo@hnpo.net
URL：http://hnpo.net

生きがいのとサポートセンター阪神北
Tel：0797-87-4350
Fax 専用：0797-85-7799
Email：cdc@hnpo.net
URL：http://cdc.hnpo.net

紙面に関するご意見・ご要望を左記までお寄せください。

宝塚地域若者サポートステーション
〒665-0845
宝塚市栄町 1-1-9
アールグラン宝塚 2F
Tel：0797-69-6305
Fax：0797-69-6315
Email：zukasapo@hnpo.net
URL：zukasapo.hnpo.net